

島根県雲南市

デジタルツインによる自然資本の価値共有・理解促進の仕組みづくり

【テーマ】 持続可能なインフラマネジメントの実現 / スモールコンセッションの推進 / **グリーン社会の実現** / その他（ ）
 【対象施設】 道路 / 橋梁 / **公園** / 上下水道 / **河川** / 港湾 / 遊休施設 / **その他（山林など）**
 【事業方式】 コンセッション / その他のPFI / 包括的民間委託 / **その他（実証実験）**

雲南市の豊かな自然環境の価値や空間的分布をデジタルツインによる3次元表現等を用いて可視化することで、

市民や来訪者が理解・体験する取り組みを進め、well-being for all UNNAN（みんなが幸せに暮らせるまち）につなげる仕組みを構築したい。

①解決したい課題

○雲南市について

- 島根県東部の中山間地域に位置、面積553.18km²、人口約3.6万人、高齢化率約40%と人口減少・高齢化が進行しているが地域自主組織による多様な活動の実践により課題解決先進地を目指す。
- 一級河川である斐伊川の上流域を有し、龍頭が滝周辺をはじめ、森林・水系・里山景観など豊かな自然環境を有する地域である。
- 将来像として「えすこな 雲南市／well-being for all UNNAN（みんなが幸せに暮らせるまち）」を掲げ、「人と人」「人と自然」「人と歴史・文化」のつながりの中で「調和（えすこ）」を大切にする考え方を示し、実現に向けて「自治／コミュニティ」や「保健・医療・福祉」、さらに「観光／ブランディング」や「自然環境／生物多様性」などを含む施策体系を掲げ、分野横断で取り組む方針を示している。

○解決したい課題

- 豊かな自然環境の価値（地形的特性や景観、木材資源の価値等）が、空間的にどのように分布し、どの程度の機能や価値を有しているのか、市民や来訪者に分かりやすく共有されていない。
- 特に、高齢者や療養中の住民など、自然空間に自ら訪れることが難しい移動制約を有する住民にとっては、自然環境の魅力や価値を体験的に感じる機会が限られている。
- また、観光や交流の文脈においても、自然資本の価値が場所や季節、滞在時間に依存して、体験の質や理解の深さにばらつきが生じている。
- 上記の課題解決のため、龍頭が滝周辺の山林等を対象フィールドとし、自然資本の空間的・機能的な価値を可視化し、それを市民や来訪者が理解・体験できる形で地域振興や日常の暮らしやケア、観光・交流の場面において提供する事業手法を構築し、Well-being、ケアの実践、観光・交流の質の向上、里山活用にデータを活用していきたい。

②課題解決の方向性等

【自然資本の空間的・機能的価値の可視化】

- ・雲南市の森林・里山等の自然空間を、単なる保全対象ではなく、空間的な分布と機能・価値を持つ地域資源として捉える。
- ・地形的特性や景観・体験を通じて、住民や来訪者に伝わる生活の質への影響という観点から、自然資本の特徴を整理・可視化する。

【市民・来訪者が“理解・体験できる形”での提供】

- ・自然資本の価値は、専門的な知識や現地体験を前提としなければ伝わりにくい側面がある。そこで、自然空間の特徴や魅力を、龍頭八重滝県立自然公園の森林、滝、河川を中心に一体的に視覚的に把握・共有できる形で示し、市民や来訪者が直感的に理解・体験できる状態を目指す。
- ・日常の暮らし、ケア、観光・交流の中で、自然との関わりを主体的に選択できる環境づくりにつなげる。

【Well-beingの視点からのコンテンツ制作・発信】

- ・可視化・整理された自然資本の価値を、人と自然との関わりや、暮らしの中で感じられる状態という観点から捉え直し、Well-beingの視点で分かりやすく整理する。
- ・自然環境が、日常の暮らしや地域とのつながりの中でどのように人の状態や生活の質に関わっているのかを、視覚的な表現やデジタルコンテンツを通じて示す。
- ・これにより、雲南市が対外的に発信している「人と人」「人と自然」「人と歴史・文化」のつながりを大切にする**「えすこな 雲南市／well-being for all UNNAN」**の考え方を、自然資本の文脈から理解・共有することにつなげる。
- ・地域自主組織などの活動の中で地域の課題解決のための事業にも活用していく。

参考：デジタルツインによる3次元表現



出典：ミドリクNbS株式会社

③課題解決のイメージ・効果

- ・自然資本の空間的・機能的な特徴が可視化され、雲南市の森林・里山の価値を、市民や来訪者が直感的に理解できるようになる。
- ・制作したデジタルコンテンツを活用することで、自然資本の価値を分かりやすく伝えるPR・情報発信が可能となる。
- ・自然環境と暮らしとの関わりが見える化されることで、日常の暮らしやケア、観光・交流の中で自然資本を活かす多様な取組の広がりが期待される。

その他

- ・本事業は、「えすこな 雲南市／well-being for all UNNAN」の考え方のもと、自然資本の価値を可視化し、分かりやすく伝える実証事業として位置づける。
- ・制作したデジタルコンテンツは、雲南市の自然資本を伝えるPR・情報発信や地域自主組織などの多様な地域活動での活用や里山整備の事業計画や担い手育成等への活用を想定する。